

山口情報芸術センター [YCAM] 研究開発/シンポジウム (一般公開)

シンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクステンジ」

2012年3月3日(土) 13:30-16:30

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

参加無料 ※要事前申込 [受付期間1月4日(水) - 2月25日(土)]

振付家ウィリアム・フォーサイスの思想から広がる ダンスとメディアテクノロジーの可能性に迫る学際的研究プロジェクト

山口情報芸術センター [YCAM] では、ダンスとメディアテクノロジーの新たな可能性を模索することを目的に、現代の身体表現全般に多大な影響を与える振付家ウィリアム・フォーサイスの思想を基本コンセプトとする、ダンス創作のツールの研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion (リアクター・フォー・アウェアネス・イン・モーション)」を実施しています。このたび、ゲストスピーカーを交え、このプロジェクトの中間報告をおこなうとともに、〈フォーサイス〉〈ダンス〉〈テクノロジー〉を共通項とするアメリカ・オハイオ州立大学の研究開発チームの研究事例を紹介し、討議をおこなうシンポジウムを開催します。

身体やそれを取り巻く環境情報の取得とその利用を通して、私たちはダンスという行為をどのように捉えることができ、また創作の現場で今後どのような試みが出来るのか——。ダンスとテクノロジーについての歴史的な事例との比較、そして、人間の身体のメカニズムや知覚システムからみたダンスという視点から、日米双方の研究開発チームの試みについて読み解いていくとともに、身体表現研究の最前線をご紹介します。

この機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM] 担当：竹下、塩見

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



YCAMでの研究開発の様子(2011年)

シンポジウム

「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクステンジ」

■ 発表者

- ・ベンジャミン・シュローダー
(コンピューター科学研究者/アメリカ・オハイオ州立大学)
- ・YCAM InterLab + 安藤洋子(ダンサー/ザ・フォーサイス・カンパニー)
- ・ライリー・ワッツ(ダンサー/ザ・フォーサイス・カンパニー)

■ ゲストスピーカー

- ・池上高志(複雑系研究者/東京大学)
- ・ヨハネス・ピリンガー
(メディア・コレオグラファー/イギリス・ブルネル大学)

ダンスの定義を拡張する。パフォーミングアーツの創作過程を再考する。

世界的に活躍するダンサー・安藤洋子と共同で開発するダンスのための新しいツール

YCAMでは2011年から2年間の計画で、ザ・フォーサイス・カンパニーの主要ダンサーを務める安藤洋子と共同でメディアテクノロジーを援用したダンス創作のためのツールの研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion (リアクター・フォー・アウェアネス・イン・モーション)」を実施しています。

このプロジェクトは、コンテンポラリーダンスの枠を超えて現代の身体表現全般に多大な影響を与える振付家ウィリアム・フォーサイスが培ってきた振付の方法論、そして身体への思想を基本コンセプトとしています。そのため、このツールは、ダンサーに対して予め決められた振付を習得することを求めるのではなく、ダンサー同士の上演中のコミュニケーションを重視し、舞台という環境に対する知覚と適応能力にまでダンスの概念を拡大することで、自発的に動くための「ルール」を作り出すことを促すものになります。プロのダンサーの創作を刺激することはもちろんのこと、ダンスが未経験の一般の体験者もこのツールを使うことで、現代人が失いつつある身体感覚を学習できるような、汎用性が高いツールの開発を目指しています。

現在開発中のシステムについて

現在はセンシング技術と強化現実 (AR) 技術を応用することで、多様な形や動きを持つ仮想的なオブジェを現実空間上に生成するインタラクティブ・システムの開発をおこなっています。このシステムは、仮想的なオブジェと身体との関わりを通して、普段意識していない自分の動きについて客観的に知ることができたり、ダンスのための新しい動きのアイデアを引き出すことができるというものです。YCAMでは同年5月、この開発を起点に安藤洋子のインスタレーション作品「Reacting Space for Dividual Behavior (リアクティング・スペース・フォー・ディビジュアル・ビヘイビア)」を制作・発表しました。

プロジェクトの流れ

2011年度

シンポジウムの実施
(国際的な研究成果の交換)

2012年度

ダンス創作のためのツール開発

デモンストレーション・パフォーマンスの発表

2013年度

エデュケーションツール開発

ワークショップの実施



安藤洋子「Reacting Space for Dividual Behavior」(2011年)

国内外のアーティスト、研究者が最新事例をエクステンジ

〈フォーサイス〉〈ダンス〉〈テクノロジー〉から身体表現の可能性を模索する

今回開催するシンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクステンジ」では、「Reactor for Awareness in Motion」の中間報告を、安藤洋子らによるデモンストレーションを交えておこないます。また、YCAMと同様にフォーサイスの思想を出発点に研究をおこなっているオハイオ州立大学ACCADのプロジェクト「Synchronous Objects（シンクロナス・オブジェクト）」のプレゼンテーション、および国内外の研究者を招いて、両プロジェクトについてのディスカッションもおこないます。

モーションキャプチャーやジェスチャー解析など、私たちの身体を取り巻く環境情報を取得するための技術が進歩を遂げる現在、私たちはダンスという行為をどのように捉え、また創作の現場でどのような試行ができるのか——。このシンポジウムでは、この点について批評的視点から議論を深めていきます。

オハイオ州立大学 ACCAD 「Synchronous Objects」(2009年)

フォーサイスが振付をおこない、2000年に初演された17人のダンサーのためのアンサンブルダンス「One Flat Thing, reproduced（ワンフラットシング、リプロデュースト）」。

この作品は「カウンターポイント（対位法）」と呼ばれる古典的な振付規範を検証し、再構成するというアプローチで制作されています。

フォーサイスとオハイオ州立大学ACCADが開発した「Synchronous Objects」では、このダンスを正面と上部から撮影した映像を解析するとともに、出演したダンサーたちへのインタビューをおこなうことで、予め決められた振付に加えて、上演中のダンサーたちがどのようにその振付を解釈するか、また、他のダンサーとどのようにコミュニケーションを取り、集団的にダンスを生成していくかという構造をCGによってビジュアライズしています。

タイムスケジュール（予定）

13:30-14:20

プレゼンテーション1 オハイオ州立大学ACCAD

Synchronous Objects

フォーサイスとアメリカ・オハイオ州立大学ACCADがおこなったダンス理解のための多様な方法を提案する共同研究「Synchronous Objects」について、開発者のベンジャミン・シュローダーを招いてプレゼンテーションをおこないます。

14:35-15:25

プレゼンテーション2 YCAM InterLab + 安藤洋子

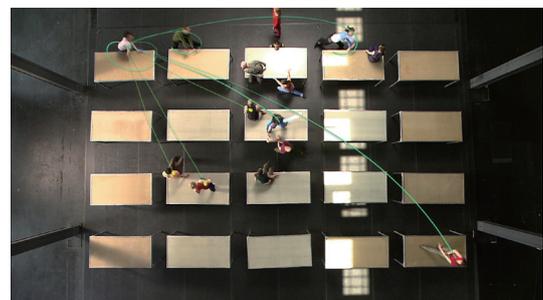
Reactor for Awareness in Motion

YCAM InterLabと安藤洋子が現在開発しているダンス創作のためのツール「Reactor for Awareness in Motion」について、そのコンセプトの説明、技術的側面の解説をおこなった後、安藤と、ダンサーのライリー・ワッツによるデモンストレーションをおこないます。

15:35-16:30

ディスカッション

ゲストスピーカーの池上高志とヨハネス・ビルンガーを交えて互いのプロジェクトについての意見交換、ディスカッションをおこないます。



オハイオ州立大学ACCAD「Synchronous Objects」(2009年)
このプロジェクトから発展して、2010年にはインスタレーション作品「Synchronous Objects, reproduced」を発表している。

発表者

安藤洋子

ダンサー。ザ・フォーサイス・カンパニー所属。1989年、舞踊家の木佐貫邦子に会い、本格的にダンスを始める。1997年より自作のソロダンス活動を開始。2001年には、ウィリアム・フォーサイスに認められ、フランクフルトバレエ団（2005年より「ザ・フォーサイス・カンパニー」）に入団。ザ・フォーサイス・カンパニーの中心的存在として世界の第一線で活躍中。同時に日本においても、自らの企画プロジェクトや外部カンパニーへのゲスト出演、振付など精力的に活動している。

ベンジャミン・シュローダー

コンピューター科学研究者。オハイオ州立大学博士課程在籍。アニメーション、サウンド、フィジカル・インタラクションなどのタイムベースメディアに興味を持つ。「Synchronas Objects」においては、創作、そして教育のための「カウンターポイント・ツール」のデザインと開発に携わる。「Synchronas Objects, reproduced」では、カメラとプロジェクションを使った没入型のツールを制作した。

ゲストスピーカー

池上高志

複雑系研究者。東京大学広域科学専攻教授。理学博士。複雑系と人工生命を研究テーマとし、ダイナミクスからみた生命理論の構築を目指している。博士号取得後、自己複製や進化理論、ゲーム理論の研究を精力的におこない、1998年以降は身体性の知覚、進化ロボットの研究へと展開している。近年は油滴の自発運動の化学実験や、自律ロボットを使ったロバストネスの実験もおこなっている。主な著書に「複雑系の進化的シナリオ」（朝倉書店）、「動きが生命をつくる」（青土社）など。

ライリー・ワッツ

ダンサー。ザ・フォーサイス・カンパニー所属。アメリカ、メイン州出身。ウォールナットヒル芸術高校とジュリアード学院にて学ぶ。過去には、Cedar Lake Contemporary Ballet、Bern:Ballett、ネザーランド・ダンス・シアターIIで踊る。2006年、Princess Grace Award for Modern Dance受賞。2010年よりザ・フォーサイス・カンパニーに所属。

YCAM InterLab

山口情報芸術センター [YCAM] に附属するメディアアートを専門とした研究開発チーム。主にYCAMの委嘱作品として発表するインスタレーション作品やパフォーマンス・アート作品の技術開発をおこなっている。また、文化施設における技術者間の交流と人的ネットワークの構築、研究領域の拡大・普及を目的とし、国内外から研究者を招聘する共同研究などにも積極的に取り組んでいる。

ヨハネス・ビリンガー

メディアコレオグラファー、研究者。ブルネル大学ADaPT-Lab共同ディレクター、同大パフォーマンス・テクノロジー教授。ヨーロッパ、北南米、中国において、サイトスペシフィックなインスタレーションとともに、数々のマルチメディア演劇、ダンス、デジタル・パフォーマンスを手がけ、フィルム・ビデオフェスティバルで作品を発表。著書に「Theatre, Theory, Postmodernism」（1991年）、「Performance, Technology and Science」（2009年）など。

開催概要

山口情報芸術センター[YCAM]: 研究開発／シンポジウム（一般公開）

シンポジウム「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクスチェンジ」

発表者：ベンジャミン・シュローダー、YCAM InterLab + 安藤洋子、ライリー・ワッツ

ゲストスピーカー：池上高志、ヨハネス・ビリンガー

2012年3月3日（土）13:30-16:30

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

参加無料 ※要申込[受付期間1月4日（水） - 2月25日（土）]

■通訳あり ■未就学児入場不可

■託児サービス

対象：0才（6ヶ月）以上 託児時間：開始30分前から終了後30分後まで 料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：2月25日（土）までに、チケットインフォメーションまでお申し込みください。

■車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。

シンポジウム申込方法

はがき・電話・FAX・e-mailにて、住所、氏名（ふりがな）、性別、年齢、電話番号・e-mail等連絡先とともに、下記へお申し込みください。

山口情報芸術センター「フォーサイス・ダンス・スタディ・エクスチェンジ」係

〒753-0075 山口市中園町7-7 TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: fdse@ycam.jp

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

支援：平成23年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

特別協力：ドイツ文化センター

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]